

## ノロウイルス感染症発生動向について

平成 19 年 10 月 12 日薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会食中毒部会  
「ノロウイルス食中毒対策について（提言）」疫学関連更新情報（2010 年 3 月現在）

厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課  
食中毒被害情報管理室

### 1. 疫学

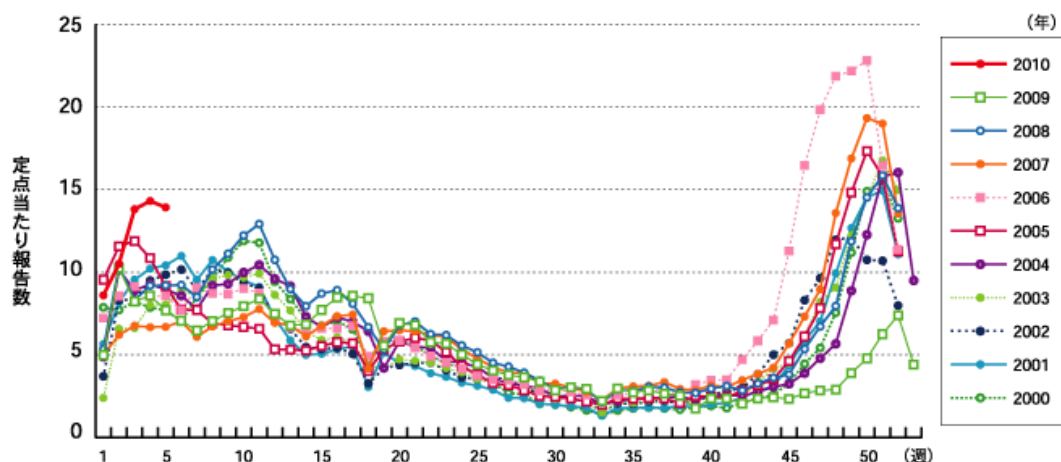
#### ① 2009 年ノロウイルス食中毒発生状況

- ・ 2009 年のノロウイルス食中毒は、事件数 288 件、患者数 10,874 名（2008 年と比較して、事件数 15 件増、患者数 744 名増）であった。その内、患者数が 500 名以上の事例は、1 件（636 名）であった。都道府県等からの報告によると、ノロウイルスに感染した調理従事者等による二次汚染、汚染された二枚貝の生食等が主な原因と推察されている。
- ・ 月別発生状況は、2009 年 1 月に 82 件（2,732 名）、2009 年 12 月も 82 件（2,709 名）発生し、冬季に集中して発生した。
- ・ 原因食品は、食事等が 205 件（8,073 名）、魚介類（貝類）が 33 件（401 名）、複合調理食品が 17 件（418 名）の順で多かった。
- ・ 原因施設は、飲食店が 191 件（4,964 名）、旅館が 34 件（2,616 名）、仕出屋が 20 件（1,493 名）の順で多かった。

#### ② 感染症発生動向調査（週報）

- ・ ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、感染症発生動向調査の中で、全国約 3,000 の小児科定点医療機関から報告される感染性胃腸炎に含まれて報告されている。
- ・ 2009 年の感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、例年急増が見られる第 45 週以降において過去の水準よりも低い状態が続いていたが、2010 年に入ると一転して例年よりも報告数が多くなっている。
- ・ 2010 年第 5 週（2 月 1 日～2 月 7 日）の定点当たり報告数は 13.9（報告数 42,173）となり、前週の報告数（定点当たり報告数 14.3、報告数 43,403）をやや下回ったものの、第 3 週以降は、過去 10 年間のそれぞれ同週と比較して最も多く推移している（図 1）。
- ・ 第 5 週の都道府県別の報告数では、宮崎県（24.0）、愛媛県（23.7）、鹿児島県（22.9）、島根県（20.7）、山口県（19.8）、大分県（19.6）、岡山県（19.3）と中国、四国、九州地域が多い。
- ・ 2010 年第 1～5 週の累積報告数 185,715（定点当たり累積報告数 61.3）を年齢群別にみると、例年と同様、0～1 歳 41,049（22.1%）、2～3 歳 37,515（20.2%）、4～5 歳 31,209（16.8%）の順で、5 歳以下が全報告数の 60%前後を、7 歳以下が 70%以上を占めていた。

図1. 感染性胃腸炎の年別・週別発生状況(2000～2010年第5週)



### ③ 病原微生物検出情報（月報）

- ・ 病原微生物検出情報には、地方衛生研究所で検査されノロウイルスと確認されたものが集計されている。
- ・ 2008年10月～2009年6月に地方衛生研究所から国立感染症研究所感染症情報センターに報告された食中毒又は感染症由来のノロウイルスは、2,632株であった。検出されたノロウイルスを遺伝子群別に見ると、遺伝子群II(GII) 2,214株(84.1%)、GI 164株(6.2%)、未群別 254株(9.7%)で、GIIが大半を占めていた。
- ・ 報告総数の19%にあたる501株の遺伝子型が報告された。遺伝子型4(GII/4)が最も多く約65%(326株)を占めたが、過去2シーズンと比較してその割合は減少した。その他の遺伝子型はGII/6 82株(16.4%)、GII/2 30株(6.0%)、GI/4 21株(4.2%)、GII/3 11株(2.2%)、GI/3 10株(2.0%)、GII/12 8株(1.6%)、GI/8 7株(1.4%)、GI/7 3株(0.6%)、GI/1、GII/11、GII/13各1株(0.2%)であった。

## 2. 分子疫学的解析

- ・ 検出された遺伝子型の約65%を占めたGII/4について、2008年～2009年流行期に全国18の地方衛生研究所で検出された98株の構造蛋白質コード領域の塩基配列を基に分子系統樹解析を行った。2006/07シーズンのノロウイルス大流行の主因であり、GII/4の亜型のひとつである2006bが大半を占めたが、GII/4における2006bの検出割合は過去2シーズンの約90%から80%に減少した。
- ・ GII/4では、2006b以外に、亜型2008a、2008bの2種類が検出され、それぞれ、全国6か所あるいは3か所の観測地点より報告された。2008aは2007年12月にオランダで発見されたApeldoorn317/2007/NLに近縁な株であった。
- ・ GII/4に次いで多く検出された遺伝子型はGII/6であった。GII/6亜型の流行の傾向を調べるため、全国6の地方衛生研究所で2009年1月から6月に集団発生、

食中毒事例等から検出された GII/6 74 株について構造蛋白質コード領域の部分塩基配列を用いて分子系統樹解析を行った。全ての GII/6 検出株は 2007 年にメキシコで検出された株および 2003 年にスウェーデンで検出された株と近縁であった。更に、1998 年に埼玉県で採取された GII/6 亜株 SaitamaU16、U17 とも類似した株であった。